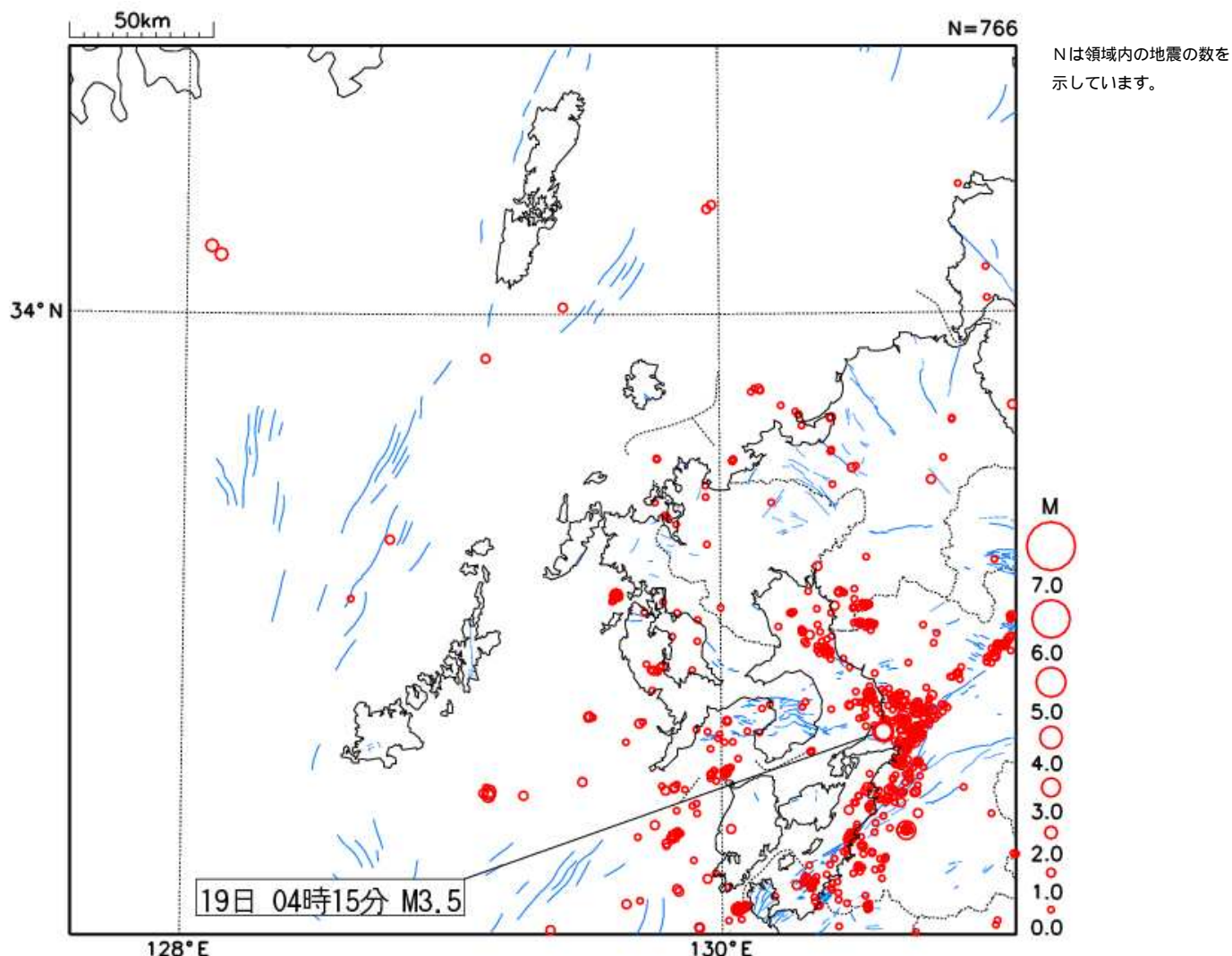


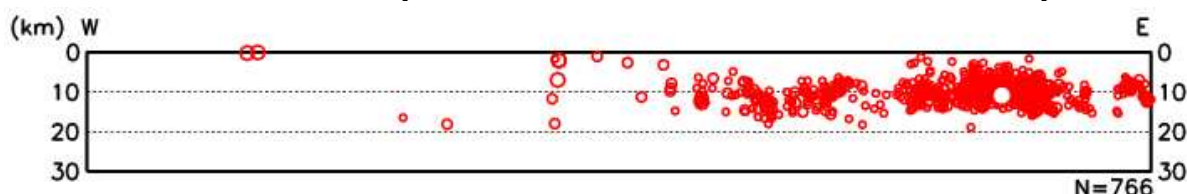
長崎県の地震活動概況（2020 年 2 月）

令和 2 年 3 月 9 日

長崎地方気象台



震央分布図（2020 年 2 月 1 日 ~ 29 日、深さ 30km 以浅、M 0.0）



断面図（2020 年 2 月 1 日 ~ 29 日、深さ 30 km 以浅、M 0.0）
（震央分布図を南の方から見た断面図です）

地震活動の概況（2020 年 2 月）

2 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震は 2 回（上記震央分布図領域外 1 回を含む）でした（1 月：3 回）。詳細は次ページ以降のとおりです。

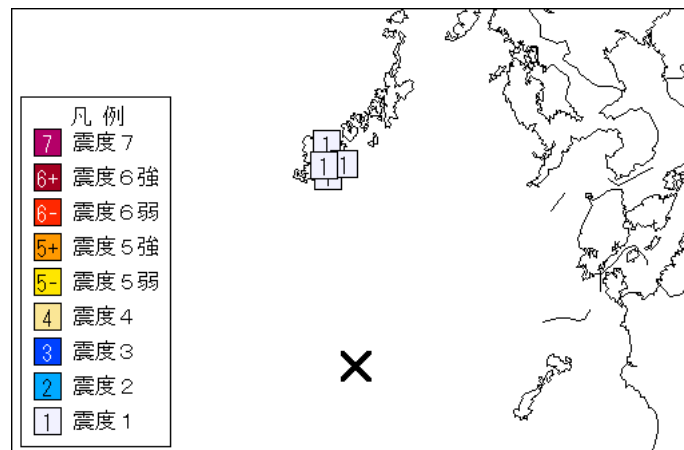
本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す（活断層のデータは新編日本の活断層による）。

本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

薩摩半島西方沖（ 1 ページ震央分布図領域外 ）

8 日 02 時 13 分に薩摩半島西方沖で発生した M4.0 の地震（深さ 29 km）により長崎県の五島市で震度 1 を観測しました（図 1）。

1997 年 10 月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近（図 2 領域 a）は、M4.0 以上の地震が時々発生している領域で、2016 年 6 月 4 日に M4.5 の地震（深さ 29 km、最大震度 3）が発生し、長崎県では、五島市で震度 3、佐世保市、平戸市、松浦市、諫早市、時津町および新上五島町で震度 2 ～ 1 を観測しています（図 2、図 3）。



2 月 8 日 02 時 13 分 M4.0
図 1 震度分布図（観測点別、×：震央）

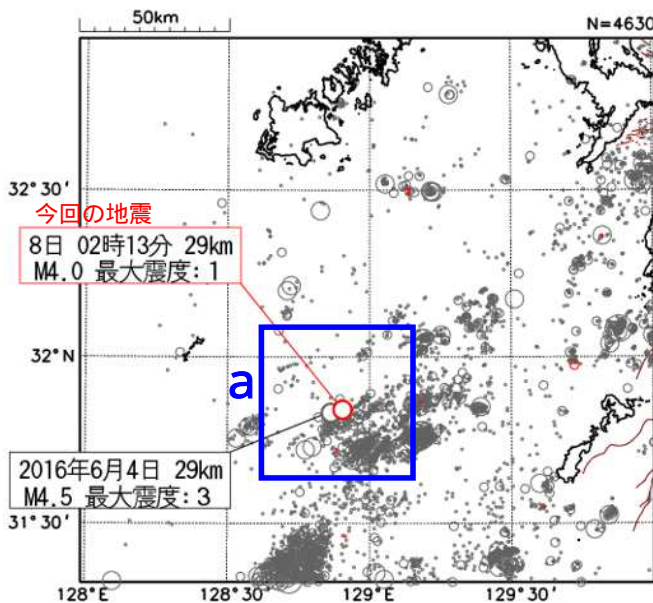


図 2 震央分布図

（1997 年 10 月 1 日～2020 年 2 月 29 日 深さ 0 km～60km M 2.0）

2020 年 2 月 1 日以降の地震を赤で表示

図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

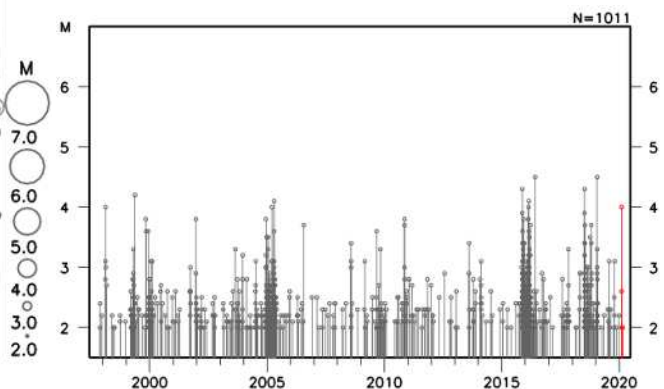


図 3 図 2 領域 a 内の地震活動経過図

熊本県熊本地方

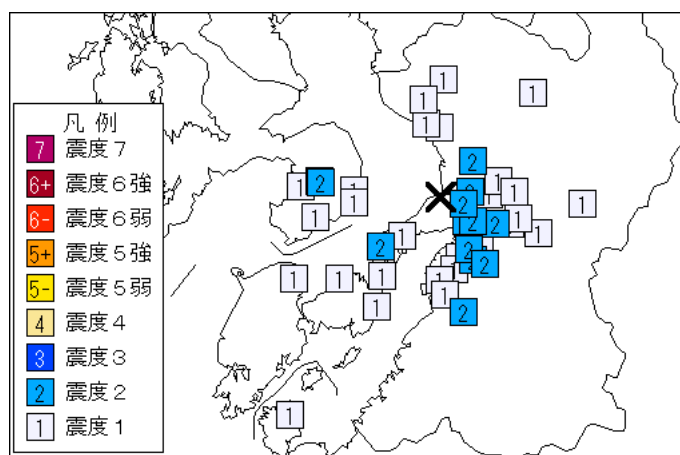
19 日 04 時 15 分に熊本県熊本地方で発生した M3.5 の地震（深さ 11 km）により、長崎県、熊本県、鹿児島県で震度 2 ～ 1 を観測しました。長崎県では、雲仙市で震度 2、南島原市で震度 1 を観測しました（図 4）。

今回の地震は、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の活動域内で発生した地震です。

「平成 28 年（2016 年）熊本地震」に関しては、以下の気象庁ホームページを参照ください。

気象庁（熊本地震特設ページ）

http://www.jma.go.jp/jma/menu/h28_kumamoto_jishin_menu.html



2月19日 04時15分 M3.5
図4 震度分布図（観測点別、×：震央）

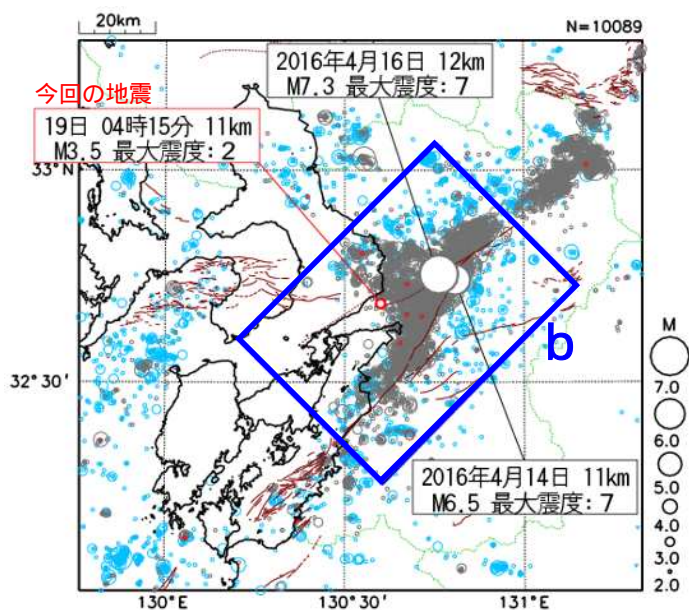


図5 震央分布図

（1997 年 10 月 1 日～2020 年 2 月 29 日 深さ 0 km～20km M 2.0）

2016 年 4 月 13 日以前の地震を青色で、

2016 年 4 月 14 日以降の地震を灰色で

2020 年 2 月の地震を赤色で表示

図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す。

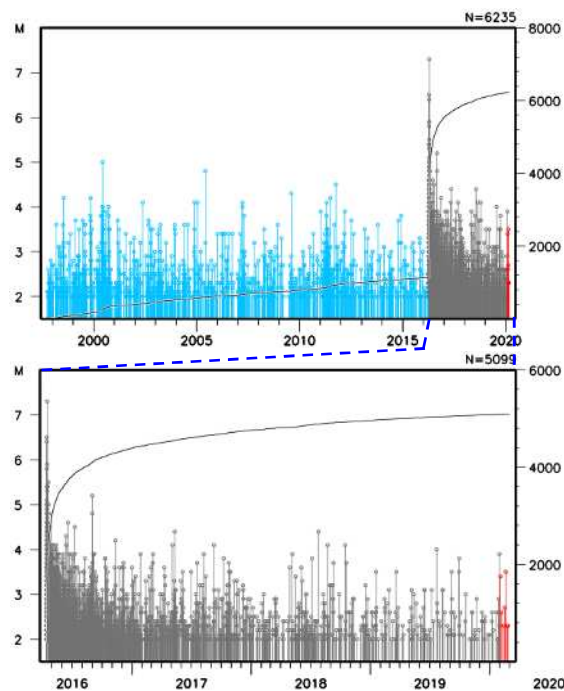


図6 図5領域b内の地震活動経過図及び回数積算図

（上段：1997 年 10 月 1 日～2020 年 2 月 29 日、
下段：2016 年 4 月 14 日～2020 年 2 月 29 日）

長崎県内で震度 1 以上を観測した地震の表 (2 月 1 日 ~ 29 日)

地震発生時刻 各地の震度	震央地名	北緯	東経	深さ	規模
2020 年 02 月 08 日 02 時 13 分 震度 1 : 五島市富江町繁敷, 五島市上大津町 *, 五島市岐宿町 *, 五島市富江町富江 *	薩摩半島西方沖	31 ° 50.4' N	128 ° 54.3' E	29km	M4.0
2020 年 02 月 19 日 04 時 15 分 震度 2 : 雲仙市小浜町雲仙 震度 1 : 雲仙市雲仙出張所 *, 雲仙市小浜町北本町 *, 南島原市北有馬町 * 南島原市布津町 *, 南島原市深江町 *	熊本県熊本地方	32 ° 41.1' N	130 ° 36.0' E	11km	M3.5

注) 震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。
*を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

「液状化現象」について

液状化現象とは、地震により強く揺らされた地面が液体のようになる現象で、水を多く含んだ砂の地盤や埋立地などで起こります（図 1）。液状化現象が起こると、その上に建てられたビルや電柱が傾いたり、地中の土管やマンホールが浮き上がったりするなど、私たちの生活基盤にも大きな被害が出ることがあります。

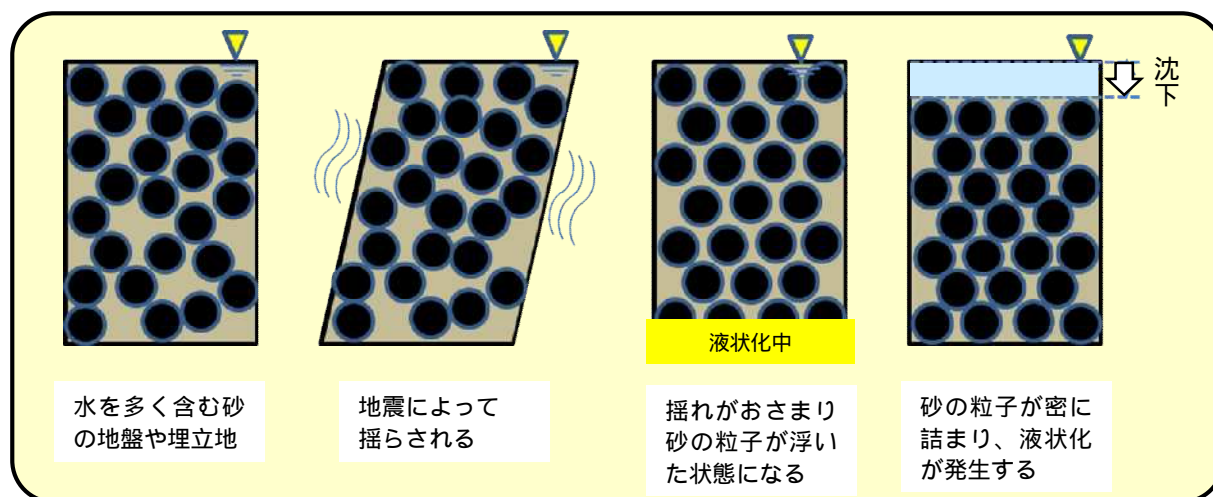


図 1 液状化が発生するまでの流れ
（東京大学出版会「日本の液状化履歴マップ 745-2008」を基に加筆）

この液状化現象により、1964 年の「新潟地震」では河畔の住宅が大きく傾いたり空港の滑走路が冠水したりするなどの被害が出たほか、「平成 23 年（2011 年）東北地方太平洋沖地震」や「平成 30 年北海道胆振東部地震」でも市街地で地中のマンホールや貯水タンクが地表に浮き上がるなどの被害が出ました（写真 1）。九州では、2005 年 3 月 20 日の福岡県北西沖（当時の震央地名は福岡県西方沖）の地震や平成 28 年（2016 年）熊本地震でも液状化現象による被害が発生しました。

長崎県は、「長崎県地震等防災アセスメント調査報告書（平成 18 年 3 月）」により、県内で液状化の危険性が高い場所を示した地図を作成しています（図 2）。

<https://www.pref.nagasaki.jp/sb/preparation/001/assessment/>



写真 1 マンホール周辺の道路の陥没（札幌清田区平岡地区）
（平成 30 年北海道胆振東部地震現地調査報告より）

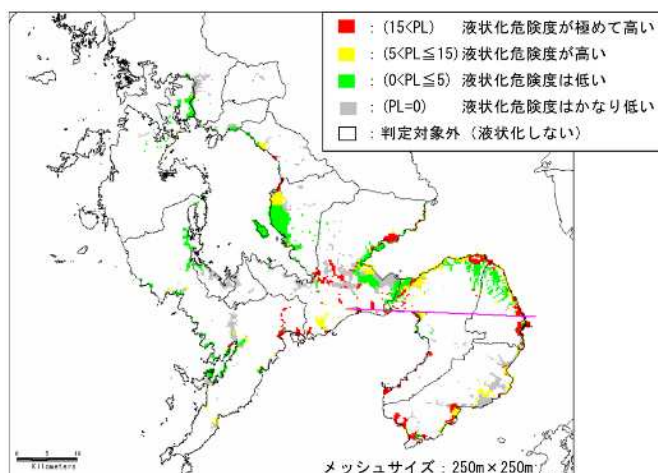


図 2 液状化危険度の分布（雲仙地溝北縁断層帯）
（長崎県地震等防災アセスメント調査報告書より）
凡例の PL とは地盤液状化指数のこと